



雪景色の玉原高原

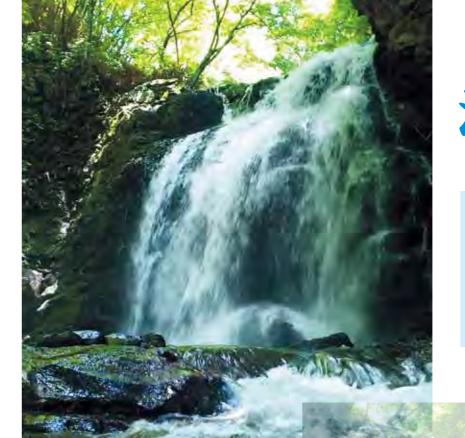
(写真提供:群馬県沼田市)

特集:真田一族

- ◎乱世を生きる知恵と戦略
- ◎真田街道の山城
- ◎真田氏ゆかりの居城 沼田城

特集:「花燃ゆ」歴史を訪ねて

- ◎ 生糸交易で近代化に貢献した上州人 下村善太郎、中居屋重兵衛
- ◎ お客様紹介 サクラーレ福住 様
- ◎ 名瀑探訪 浅間大滝



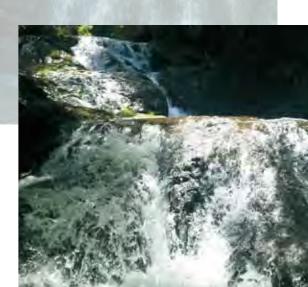
名瀑探訪

浅間大滝

ASAMAOTAKI

浅間大滝は幅2m、高さ15mで、北軽井 沢周辺では最もスケールの大きい滝とい われています。静かな山間に、滝の水音が 響き渡り、豪快な落水に魅了されます。ま た、浅間大滝の下流5分程の場所にある 魚止めの滝は「魚が登りきれないほどの 激しさ」があるところから名付けられたと いい、3段にわたる落差が特徴です。





ゎずゃまと 『和's YAMATO』の由来

碓氷軽井沢IC

ヤマトの漢字の「和」、Water & Air の頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。ヤマトが発信するメッセージです。

株式会社ヤマト情報誌

和's YAMATO 2016 初春号/2016年1月発行

発行:株式会社ヤマト(広報室) 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896

群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896 支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北

営業所/軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀 附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、 朝倉工場、サポートセンター、教育センター、コンタクトセンター

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/

初春号(第27号) 2 0 16





族

武 田信玄と真田幸隆

信濃、上州を攻略 真田氏は信濃・真田の地が発祥

家は将来が危ういと冷静に分析し 将だという情報を得ており、上杉 りながらも、憲政が能力の低い大 り、幸隆は上杉憲政の力量に疑問 敵対する関東管領の上杉憲政を頼 たのだった。海野棟綱は、武田氏と は父との説がある)の領地を奪っ 野棟綱 (信濃の豪族・幸隆の祖父又 ことで、武田信虎(信玄の父)に味 幸隆(幸綱)は戦に敗れ、真田の地 ていたからかもしれない。信濃を たのは、関東管領という高位にあ せる。幸隆が上杉氏を頼らなかっ を抱き、上野国・箕輪城の長野業政 と諏訪頼重の連合軍が、幸隆と海 方した信濃の戦国大名・村上義清 信州に侵攻した「海野平の戦い」の を追われる。この戦とは、武田氏が だが、天文十年(一五四一)に真田 (ながのなりまさ)のもとに身を寄

> る 追われた幸隆は、いずれ故郷を取 り戻そうと考えていたと想像でき

るようになった。 七月、信玄は信濃への侵攻を開始 諸説ある。天文十九年(一五五〇) 虎を追放して家督を握った。真田 十年に、武田家では信玄が父の信 ことにより、信玄は幸隆を重用す た。難攻不落の砥石城を落とした 石城の兵に調略を仕掛け、手引き 石城の攻略に活躍する。幸隆は砥 攻撃する。幸隆は村上氏が守る砥 濃で勢力を保っていた村上義清を 手中に収めた信玄は、同年十月、信 する。信濃府中(松本市)を攻めて 仕えてからであるが、その時期は 家が飛躍するのは、幸隆が信玄に する城兵を通じて城内に攻め入っ 幸隆が真田の地を追われた天文



真田丸 平成28年

かさが描かれる。 も称された信繁(幸村)の前向きさ、 真田家の固い家族愛や、「日本一の兵」と 中心にして描く物語。今回のドラマでは、 激動の戦国時代を生き抜いた真田一族を 華や

真田丸主な出演者 (写真提供NHK) 平成28年大河ドラマ「真田丸」

人(真田信繁·通称幸村)、大泉洋(真田信幸)、 斉藤由貴(阿茶局)、内野聖陽(徳川家康)、堺雅

正臣(本多正信)、草刈正雄(真田昌幸)、高畑段田安則(滝川一益)、藤岡弘、(本多忠勝)、近藤 淳子(薫)、寺島進(出浦昌相)

(高梨内記)、藤井隆(佐助)、平岳大(武田勝頼)政伸(北条氏政)、草笛光子(とり)、中原丈雄 吉田羊(稲(小松姫))、遠藤憲一(上杉景勝)、高嶋



真田の里 真田幸隆公 石像

砥石城 とこと

岩櫃城いわびつじょう

岩櫃山(標高802m)は、

城郭の規模は約136





われています

隆が岩櫃城を拠点に吾妻一

帯を支配しました。

築城

城主で、武田軍の猛攻に奮戦

したものの力尽きて落城、幸

ときの岩櫃城は齋藤憲広が 城の攻略を命じました。この 企て、重臣の真田幸隆に岩櫃



本城北側の堀切

ていました。砥石城は幸隆の三男 堅固な城としてその名を轟かせ 側も大変険しい斜面となり要害 の裾を流れる神川を望む絶壁。西 3000㎡です。尾根の東側は城 三城で約26000㎡。米山城が の規模は砥石城・本城・枡形城の 総称し「砥石城」と呼びます。城郭 石城、南西に米山城。この四城を 本城を中心に北に枡形城、南に砥 高1300m)の東南側に突き出 ・昌幸が上田城に移るまで真田家 した尾根先に構築されています。 砥石城は上田市の東太郎山(標

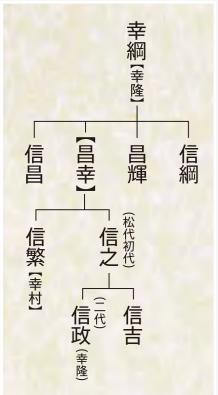
の丸、中城があります。 代表する山です。岩櫃山の北 吾妻八景の一つで、群馬県を が、鎌倉時代初期の築城とい の年代、築城主は不明で た付近に、西側から本丸、二 頂上から200mほど下っ 天然の要害となっています。 は吾妻川へと下る急斜面で、 櫃城は、西には岩櫃山、南に 東に伸びる尾根の中腹には、 山城の岩櫃城があります。岩

武田信玄が上州への侵略を 縁です。永禄六年(一五六三) 領内の三名城と呼ばれる由 城、駿河の久能城と並ぶ武田 類に入ります。甲斐の岩殿 で、上州の城では大規模な部





真田家家系図



TI'S YAMATO (DIFFEE)

03

真田街道には数々の山城が築かれ、戦国時代の面影を随所に残しています。 群馬県吾妻郡・西上野の地には、信濃から端を発した武田と上杉の対立が持ち込まれました。

鎌原城(嬬恋村

下となります 代には三原庄を支配し、室町 源氏、海野氏の一族で下屋氏 東曲輪・笹曲輪の五郭に分か があり、本丸:一の丸・三の丸・ 原氏によって築かれたのが 沢に挟まれた尾根の先端部 り関東管領になると、その配 (現在の群馬県藤岡市)に入 として、山内上杉氏が平井城 時代初期には西吾妻一の豪族 の末裔にあたります。鎌倉時 400m・幅150mの城域 始まりとされています。南北 (一三九七)に海野一族の鎌 に築かれた山城で、応永四年 は、吾妻川と通称うしろの 鎌原城(かんばらじょう) ます。鎌原氏は、滋野

信(長尾景虎)を頼ると、上州 井城を追われ越後の上杉謙 杉憲政が北条氏によって平 天文二十年(一五五一)に上

> 五六〇)、鎌原幸重・重澄親子 城代に任じられました。 藤憲広を吾妻から追い、岩櫃 ろ盾として斉藤憲広と戦いま となり、鎌原氏は武田氏を後 は、信玄に謁見してその配下 氏に従います。永禄三年(一 力を持っていた岩櫃城の斉藤 立し、鎌原氏は吾妻最大の勢 一帯は枢軸を失い小豪族が乱 幸重は真田氏に属して斉



羽根尾城(長野原町

真田幸綱(幸隆)がいました。 州に逃れた海野一族の中には 幸全に援軍を求めました。上 関東管領の山内上杉氏や羽尾 五五五) に築城されたといわ って天文年間(一五三二~| 海野棟綱は上野に追放され ていた信州の小県郡に侵攻、 れています。天文十年(一五四 力を保っていた羽尾幸全によ 一)、武田軍は海野氏が支配し 羽根尾城は、この地方で勢

全を討つ形となりました。 落とし、結果として恩人の幸 調略で寝返らせて岩櫃城を 全の弟である幸光と輝幸を 櫃城を守っていましたが、幸 岩櫃城を攻めた時、幸全は岩 禄六年(一五六三)に幸隆が り、幸全は良き理解者であっ 護を受け、幸全の娘を嫁にと たと思われます。しかし、永 真田幸隆は羽尾幸全の庇









長野原城(長野原町) 吾妻川と白砂川(旧称・須

の築城年代は不明です たる城郭を持っています。そ られた東西約700mにわ 急峻な岩山の尾根を使って作 の町並みの北側に位置する の町並みです。長野原城はそ 川) が合流する周辺が長野原

は元亀三年(一五七二)の上 兵員が手薄となった長野原斉藤憲広は農繁期で農民の 田隆永の息子の俊綱で、隆永 た(このとき討死したのは常 城は斉藤方の手に渡りまし 迎撃しますが討死し、長野原 社の辺りまで出て斉藤方を 永は自ら須川西岸の諏訪神 城の攻略に動きます。常田隆 います。永禄六年(一五六三)、 斉藤憲広の動向に注意を払 城主で上杉氏の配下である 隆永が入城して警護し、岩櫃 長野原城には幸隆の弟・常田 長野原城を攻め落とします。 隆は、斉藤氏が支配していた で先鋒を務めていた真田幸 五六二)に武田軍の上州攻略 を開始すると、永禄五年(一 武田信玄が上州への進攻

> 返されます すが、間もなく真田氏に奪い 羽尾幸全、海野幸光が入りま が奪い返した長野原城には、 伝えられています)。斉藤氏







杉方との戦いで戦死したとも

YAMATO (わずやまと)

嵩山城(中之条町)

信仰を集めていました。また、 として、吾妻盆地の各地から の上に集まる神聖な「霊山」 うです。嵩山は死者の霊が山 る山を「たけやま」と呼ぶそ 古代から祖先の霊魂を祀

この 峰を小天狗と呼んでいます。 らに、嵩山は天狗の住む山と 代の遺跡も残っています。さ り、実りを与えてくれるとさ は里におりて田畑の神とな 大天狗、中の峰を中天狗、西の も言われ、現在でも東の峰を れていました。縄文式文化時 山には神様がいて、春に

城の出城として重要な拠点 城の支城の一つでした。その に長尾景仲が北関東一帯を と位置付けました。 支配していた頃、拠点の白井 嵩山城は、室町時代の中期 岩櫃城主の斉藤氏が岩櫃

前守の子・城虎丸(じょうこまる) 城。岩櫃城主吾妻太郎斉藤越 信玄方の上田城主・真田幸隆 六三年)には、岩櫃城が武田 杉謙信の支援を受けて嵩山 (幸村の祖父)に攻められ落 (18歳)を擁した吾妻衆が、 戦国時代の永禄六年(一五

> 月、激戦の末に一族は大天狗 城に立てこもりました。しか 山城は落城しました の岩から飛び込んで自決し、嵩 し永禄八年(一五六五年)十一





中山城(高山村)

地の東端に一辺40mの正方形の本丸を っていました。 の空堀の深さは20mで、堀が通路とな 重構造としました。本丸と二の丸の り、二の丸の西、南に三の丸を造り三 の丸を設置。空堀と土塁で防御をつく 置き、本丸を囲むように西、北、南に二 いって同心円を半分に割った構造で、台 築城。半折国郭式(輪郭式ともいう)と 築かれています。北條氏が天正年間に 850m、東西約300m)の南端に 中山城は南へ伸びた台地(南北約

五七九)中山城では真田昌幸と北條氏 久田城を攻め、北條方の白井の長尾勢 解由は沼田勢と共に渋川赤城町の 正十年(一五八二)、中山城主の中 八〇)に昌幸が沼田城に無血入城。天 側との攻防が起きます。天正八年(一五 に恭順の意を示しました。天正七年(一 いた中山氏は侵攻してきた真田幸隆 と戦い討死して、 元亀二年(一五七一)上杉方について 中山城は廃城となり



888

真田信之が五層の天守閣を建造

(群馬県沼田市)





S YAMATO (hf**12)

土岐家沼田藩邸復元模型

江戸時代後期~末期の沼田藩邸を再現したもの。旧土岐家住宅洋



ごった土岐家が居住していた洋館。大正13年(1924)



真田鉄砲隊の演武式

妻入、板葺の町家で、17世紀末頃の建築と推定され、東日本で最古 の町家造り建築物。国の重要文化財。内部は公開され、資料館に



沼田公園内にある観光案内所。 休憩スペースやお土産売り場がある。



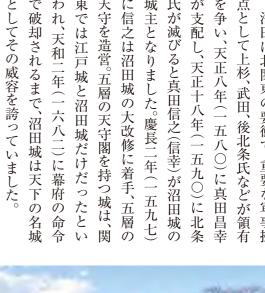


沼田城址の鐘楼

寛永11年(1634)2代城主真田信吉により造られ、沼田城の三の丸の楼に掛け時報として



二の丸 (野球場) から本丸の間に設けられ た堀は、沼田城で最も大きな堀で、幅は約 24m、石垣の高さは約6mだった。







本丸跡の碑

真田氏時代の沼田城天守閣の模型

この堰が交水堰と呼ばれるのは、このすぐ下流にあった製糸工場「交 水社」に由来するとのこと。前橋の製糸会社は、前橋藩士が開設した

ものが多く、「交水社」もその一つ。明治10年(1877)広瀬組として

創立し、その一年後に「交水社」と社名を改称する。当初は、養蚕農 家から座繰り糸を集めて品質を検査し、良質の生糸を作る会社で、 その後、座繰製糸から器械製糸へ、そして養蚕農家を組合員とした

「花燃ゆ」歴史を訪ねて

交水堰(交水社の取水堰)

組合製糸所となる。

臨江閣

前橋ガイド

上州

「花燃ゆ」歴史を訪ねて特集

下村善太郎



銀行の担保物件として集められた生糸や繭の保管倉庫。高さ約10m、長 さは54m、煉瓦の積み方は長手だけの段と小口だけの段とを一段おき に積む[イギリス積み] (富岡製糸場の繭倉庫は、長手と小口を交互に積



下村善太郎像

日本初の

機械製糸場跡の碑

られ、前橋の繁栄を築いた

た。これ

より

ら、前橋の産地相場がその影響で上昇す

製糸業・織物業で栄えた勝山社 の倉庫として明治36年(1903) に建造され、主に生糸の保管倉 庫として利用された。生糸の町

残す貴重なレンガ造の建造物。

旧勝山社煉瓦蔵

生糸の品質をチェックする施設 で、明治11年(1878)に完成したも のの、5年後の大火で焼失した。

絹の橋

社の従業員が回り道せずに対岸 に渡れるように造った橋 「絹の 橋」がある。平成8年(1996)改 修さた。交水社は、現在の市営城 東町駐車場の辺りにあり、県内 最大規模の製糸工場だったとい うことだ。





前橋残影の碑 広瀬川に架かる厩橋ぎわにあるこの碑は、生糸の町と して発展した前橋市の礎となった繭と製糸を象徴したもので、前橋市で ||河畔の緑地化にあわせて記念碑を建てた。この碑には「相葉 有流]先生の前橋残影の句「繭ぐるま曳けばこぼるる天の川] と座繰り をする女性が刻まれ、その脇には白御影石で造られた繭型の湧水があ る大きな繭からは、清らかな水が流れ出て、それを「市の紋章」を象った 丸い台座が受け止めている。前橋市住吉町一丁目(国道17号沿い)



糸を売却する商人=売込商人は横浜に 居屋重兵衛のように、横浜港で外国 の間に七倍になったということです。 年(一八五六)から慶應三年(一八六七) 生糸価格は上昇の が、文久二年(一 六八○)に生糸の比率は66%だったの したが、生糸の輸出金額は万延元年(一 横浜港の主要な輸出品は生糸と茶で したそうです。輸出の 途をたどり 増加に伴 しれませ

村ら荷主商人に加え、上州出身の 八六二)になると8%に 、安政三

人に生 店

年頃とい る前日に大量の生糸を買 上げたそうです。下村の全盛期が明治九 れていますが、その隆盛は明 七七)の東京 い占め、 前橋間の 、利益を

が橋残影の碑● 前橋公園 ● 東照宮 前橋文学館 ● ● 前群馬県令 楫取君功徳之碑 萩原朔太郎 生家跡碑 群馬会館(群馬県衛生所跡) 群馬県庁 前橋市役所 旧勝山社 ● 前橋プラザ 元気21 初代市長● 下村善太郎銅 前橋本町 清光寺 ● 龍海院

比べて日本の生糸はヨー 乱の影響で品質が低下 提糸のことをヨ て売った最初だと を二十八個売ったの 年(一八五九)八月十 に買い付けたそうです。 が驚くほどの高品質で、彼らは競うよう 減、それに加えて主要産出 を構え外国人相手の商売を展開します では「マ では蚕の病気が流行し、生糸生産は激 横浜が開港した安政六年頃、ヨ 口

ルに一

分銀十二個で前

0)

。重兵衛は安政六

日にフランス

しており

それ -国は内

玉

の中

口

ッ

口

ッ

パの商人

0)

商品取引所

シ」と呼ぶようにな

つ

いわ

れて

います。この

生糸を提糸とし

ていました。

上州は明治十年

代まで全

玉

の生糸

名は知らなくても、前橋の名は知

n

渡

前橋と生糸の 歴史

「県都前橋生糸の町」。

群馬県の偉

橋産は 四の れて では、日本から輸入された生糸のうち前 は、前橋が生糸で繁栄したことを示して 王子、甲州、奥州産よりも高値で取 のような形に複雑に結束したもの)は によると、 います。幕末から明治初期のヨ たということです。当時の 級品でした。元治元年(一八六 前橋と信州 跡を紹介する「上毛かるた」に 々にとって、京都や江戸 ス商館が香港に送った資 の提糸(生 ーロッ 糸を \exists 0

前橋本町の小間物屋「三好善」の長男に生まれ、16歳で結婚し家業を継ぐが、前橋は藩主不在で博打が流行り、善太郎も

賭博や米相場に手を出し家業が傾く。23歳で再起を決意し妻の兄の紹介で八王子の糸屋を頼り、熨斗(のし)糸買から反

郷里に戻り、糸繭商として外国取引を開始。一躍前橋の大富豪となり、城の再築に出資した他、ひたすら前橋の発展を願

ために巨額の私財を投じる。県庁誘致では有志等と先頭に立ち、楫取県令と交渉。庁舎や官舎の準備等多額の寄付をし

ている。明治25年市制施行の際、推されて初代市長に就任したが、惜しくも翌年66歳で永眠。近代前橋建設の父として偉 大な精神と功績を慕われ、市民の手で二度、銅像が建立されている。善太郎は、前橋の名誉市民の第一号ともなっている。

へと商売を広げる。横浜開港を機に、中居屋重兵衛を通じて生糸貿易でも商才を発揮し、巨利を得る。父の死後



前橋藩は明治3年(1870)に スイス人の技師を招き、洋式 製糸機械を導入、この地に 製 糸工場「前橋製糸所」を設立 した。動力には 広瀬川の水 力が利用された。この工場は 小規模ではあったが、「官営 富岡製糸場」の設立の2年前 のことであり、日本に於ける 最初の洋式機械製糸工場と されている。前橋は 水が豊富 で繭の調達が容易であったこ とから、数多くの製糸場が造

六年(一 れています。 地域差を利 め、横浜港の商人に売り渡す荷主商人と や東京都)からも大量の生糸を買い集 にとどまらず、奥州 な輸出産品になり 産業の盛んな地域での需要に加え、安政 村善太郎でした。生糸は桐生など機織り 動する商人の が生糸流通を担って もあったのです。当時の養蚕業は家内工 生産地で、需要先へ出荷する大集積地で して成功を収めます。下村は生糸価格 心で、生産者と消費者を結ぶ商 八五九)の して巨利をあげ や信州 した。下 まし たと 口 11

中で傑出していたのは、下 横浜開港からは主要 武州(埼玉県 。前橋で活 上州

その価格情報が前橋に到達するまで数 パの景気変動によって価格が乱高下 の生糸相場はヨ

間に電信が開通し 後は明治三年(一 日間のずれがありました。幕末・維新直 たも 七〇)に東京 0) の、横浜

間には電信の設備が無かったので、飛脚 が価格情報を前橋に届けていたのです もさらに早く走る飛脚= 村は横浜の相場を伝達する飛脚よ 飛脚を使

横浜で価格 相場をつ かんで いま が つ

二十七歳で医学、蘭学を学び、三十二歳 の時に、横浜港で貿易商として店舗を構 する。そして安政六年(一八五九)四十歳 後、諸大名より火薬製造の依頼が殺到 の秘法を明らかにする書物を出版。以 に火薬製造所を開設、三十九歳で火薬 で故郷ならびに上州樽村、信州依田村 大望を抱いて二〇歳で江戸に出奔した。 み、家伝の火薬製法に専心しながらも、 として生まれた。幼少時から読書に励 在の嬬恋村三原)の名主・黒岩家の長子 文政三年(一八二〇)吾妻郡中居村(現 え、外国に生糸を売り込む商いで巨万の 中居屋重兵衛(本名·黒岩撰之助)は

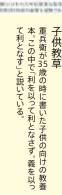
浜開港直前の重兵衛の日記「昇平日録」 要人とも密接な交流があったという。横 ていた。その商法は軌道に乗り、幕閣の 産物を扱い、商人としての道を歩み始め 造販売や生糸など全国諸藩の様々な特 横浜に店を構える以前から、火薬製

> 津、紀州、上田藩などの物産係が重兵衛 浜開港計画に早くから参画していたと いパイプを持つ政商として、幕府の横 を訪ねてくる記述がある。政治との太 際立った存在だったことが推察される。 も考えられ、学識を併せ持つ商人として 奉行の名前が頻出しており、さらに会 横浜進出を機に、黒岩撰之助は名を

日本を代表する両替商の越後屋(三井) 店舗を構えたのだった。このような店づ もはるかに及ばない豪壮かつ流麗な大 り、外国人の好奇心を満足させていた。 内には当時では珍しいオルゴー という奇抜なディスプレイが施され、室 はガラスの水槽を設置して金魚を飼う うな斬新さだった。また、店内の天井に 見ることができる、現代のデパートのよ 内は外国の貿易商が靴のままで商品を きで、「銅(あかがね)御殿」と呼ばれ、店 行三十間の店舗を建てた。屋根は銅ぶ 最も良い条件の土地に、間口三十間、奥 重兵衛と改め、新開港地の区画のうち ルがあ



中居屋重兵衛の肖像画





中居屋重兵衛の墓〈群馬県

銅(あかがね)御殿と呼ばれた2階建ての豪勢な建物横浜港開港当時の錦絵 (中居屋資料蔵・横浜県二代目歌川広重が文久元年(一八六一)に

)に描いた

二代日秋川元章が文え元年(1801)に描いた時段

安政六年一月~四月(一八五九)には、外

政六年を境に世界市場での花形になっ 頭に茶、ピストル、洋傘、ランプなどあら に精通していたからである。貿易商社と より、五か国語を習得し、西洋人の好み ゆる分野に及び、特に日本の生糸は安 しての中居屋が扱う商品は、生糸を筆 くりができたのは、重兵衛の財力はもと

ある。 権商人であったことがうかがえるので 兵衛が開明派幕閣の意図を踏まえた特 月の生糸輸出の全量・三万五〇〇〇斤 貿易の実態について京都の本店に報告 の記録がある。こうした古文書から、重 衛に藩の物産の取り扱いを一任すると の内容が書かれており、その中に、重兵 には、紀伊、会津、上田藩の交易申請書 録・東大史料編纂所所蔵)という古文書 の六割近くを扱っている」と記されてい 月八日の記録には、「中居屋が開港三カ 同書の中に、三井横浜店の勤番が生糸 は、重兵衛に関する重要な記述がある。 料・三井文書「永書」(三井文庫所蔵)に の経営に関する日記として第一級の資 る。また、横浜開港一件書類(藩交易の記 した文書があり、その中の安政六年十 幕末から明治初期にかけて、三井家

は大財閥の一つに数えられたと思われ この状態で明治を迎えれば、重兵衛

> は間違いない 本の近代化に貢献した人物であること 上州に対する思慕の念を持ち続け、日 の中居村にちなんでつけたはずである。 と称し、横浜での屋号「中居屋」は故郷 重兵衛は自らを「鳥居川(吾妻川)辺人」 の生涯を一層謎めいたものにしている。 かりとなる文献が乏しいことが、重兵衛 を出るものではない。重兵衛を知る手が 病死説など様々あるが、どれも噂の域 殺説、毒殺説、流行の麻診にかかっての 時に最期を遂げたようだが、死因は暗 を寄せた後、江戸に潜入して隠れていた 在の千葉県) に渡って親類や知人宅に身 から逃れるために横浜を去り、下総(現 の若さで忽然と姿を消した。幕府の捕吏 るが、横浜進出後わずか二年、四十二歳



で外国の商人に売りさばいたと 場よりも高値で買い取り、横浜港 す。重兵衛は生糸を農家から相 かがい知れない場所だったようで は地獄の一丁目」と呼ぶほど、う 江戸の人たちは「開港当初の横浜 像できないような未開拓の地で、

いうことですから、農家にとって

S YAMATO (njets)

中居屋重兵衛にまつわるお話を伺いました。 中居屋七代目当主・黒岩幸一氏に、



は影武者が代わりに牢に入った ようです。 れられたことがあったが、その時 で、役人からの呼び出しで牢に入

恋村の重兵衛の生家にも飛脚が われる原因だったのかもしれま を外国に売ったことも、幕府に追 た取引量の規制を無視して、生糸 ていません。幕府から通達のあっ る信用性の高い資料は発見され ないと思いますが、それを裏付け 士を支援していたことは間違い 伝わっています。重兵衛が水戸浪 と大変なので、すぐに燃やしたと す。その手紙は幕府の目に触れる 容の手紙が届いたと聞いていま 来て、井伊大老を討ったという内 桜田門外の変が起こった時、嬬

当時の横浜港は現在からは想

幕府から目をつけられていたの たようです。安政の大獄の頃は、 す。重兵衛には影武者が何人かい はありがたいことだったと思いま

おいれるれいあるれ

二人の活躍で日本産生糸が世界に流通 最大の協力者・松田玄沖との 出会い

衛)と知り合う。二人は互いの志に共通 田市)の出身で、代々医師の家に生まれ 学の修行中に黒岩撰之助(中居屋重兵 た。嘉永元年(一八四八)、江戸で医学・蘭 松田玄沖は信州依田村飯沼(現在の上

なったという。重兵衛が横浜に進出した 点を見出し、義兄弟の契りを結ぶ仲に 大番頭として重兵衛を支えた。 とき、玄沖は中居屋重右衛門と名乗り、

屋重兵衛の人物像を探る重要な手がか 日記を運んで保管し、その資料が中居 踪を遂げた時、玄沖も郷里に姿を隠し りとなっている た。その時、玄沖は中居屋関連の著書や 重兵衛が文久元年(一八六一)に謎の失



彰碑と玄沖の墓(上田市生田(飯沼))



田玄沖顕彰碑除幕式(平成27年



からの姿を描く。平成3年 上映される(中居屋蔵)



中居屋重兵衛関連資料展示室嬬恋郷土資料館の

古文書の解明から重兵衛の実像に迫る

にまつわる研究についてお話ししてくだ さいました。その一部をご紹介します。 港資料館の西川武臣副館長が、中居屋 松田玄沖顕彰碑除幕式の席上、横浜開

たことは主に以下の点です。 ら発見された古文書から明らかになっ 荷する生糸を扱っていました。飯沼村か 州・岩村田藩領の飯沼村から江戸に出 戸後期には前橋に次ぐ生糸の生産地で した。中居屋重兵衛と松田玄沖は、信 松田玄沖の出身地である信州は、江

- 幕末期の岩村田藩主は、火薬の製造 がけていた火薬の研究にも関心を示 に関心が高く、重兵衛が嬬恋村で手 していた。
- 飯沼地区はかなり広い範囲の生糸の 引を扱っていた。 前から生糸の代金を決済する為替取 ていた。重兵衛と玄沖は横浜開港以 屋に入り、西陣の織物の原料になっ 前橋に集められ、桐生・足利、江戸問 集荷され、さらに市場規模の大きい 集荷地で、諏訪地方の生糸も飯沼に

YAMATO (わずやまと)

売り、その商売は加速度的に拡大しま した。幕府内には重兵衛たちを支持す 重兵衛は生糸を大量に集めて外国に

> ではないでしょうか。 ように、危険人物として警戒していたの います。保守派官僚は、重兵衛を以下の る開明派と、それに対立する保守派が

■ 生糸商人が武器に不可欠の材料であ 力拡大を許すことは危険である。 融・流通面で有利な立場を維持し、勢 幕府に歯向かう勢力に加担すること る火薬を扱うこと自体不審であり、 も考えられる。為替を扱うことで金

な店に難癖をつけて、営業停止に追い込 んだのだと推測しています。 保守派官僚は、横浜港に建てた豪壮 成産業の権益が脅かされる。 き、国内織物業の衰退につながり、既 で、国内での品不足と価格上昇を招 生糸を外国に大量に売却すること

した。上田市では、広範囲にわたって重 口家からも重兵衛の資料が発見されま 田でも、飯沼から離れた地区にある坂 文書が見つかり、さらに昨年には同じ上 は、飯沼の吉池家から重兵衛関連の古 りの地での資料探索が重要です。上田に のには、今回の上田のように、横浜ゆか しまった。横浜開港時の歴史を検証する 横浜は関東大震災と横浜大空襲を受 市街地が二度とも焼け野原になって

> のではないかと思います。 実像として、徐々に浮かび上がってくる 謎の貿易商とされていた中居屋重兵衛 きました。こうした資料が一つ発見され 古文書の発見によって明らかになって 兵衛との密接な関わりがあったことが、 の人物像が、記録の裏付けに基づいての ると、次々と資料が発見されて、今まで

携して、重兵衛と玄沖の顕彰を行ってい 録になったことにも大きく影響してい っても過言ではありません。昨年、「富岡 近代化を成し遂げたのであり、近代化 うち、重兵衛が扱う生糸が五〇%を占 約一年間、横浜港から出荷される生糸の かれることを期待しています るといえます。上田と横浜と群馬が連 製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産登 の礎を築いたのが中居屋重兵衛だとい めていました。日本は生糸の輸出により 横浜開港の安政六年(一八五九)から

「中居屋重兵衛のしおり」中居屋重兵衛顕 齋洋信中居屋重兵衛顕彰会名誉顧問著、 (参考資料「中居屋重兵衛と生糸貿易」安 「横浜開港の功労者(生糸貿易の先駆者」、



黒岩幸一氏(左)と安齋洋信氏



NAKAIYA JUBE

紹介

社会福祉法· 人長岡三古老 八福祉会 サク いりを実践 福住

地域と密接に関わる施設づ



の開催や、1階売店で同法人で運営する障 のお茶の間やサークル活動、演芸、イベント 通じて、日ごろから地域の方々と触れ合う の地元素材にこだわったパンの販売などを 害福祉サー 仕掛けづくりを行っているのが大きな特色 施設内に設置しています。また、近隣住民 献する施設として、地域交流スペース「サク 設づくりをしています。地域の活性化に貢 交流を通じて、地域の皆様に親しまれる施 す。また、地域社会との接点を持ち、活発な に優しく、あったかい介護」を実践していま 高齢者複合施設サクラー ム(130㎡)、レル ビス事業「パン工房アルモニエ」 レ福住は、「人 ム(30㎡)」を





の声

富田幸二施設長

地域交流スペースでの地元医療・介護情報交換会



万々、職員の「ほしい」の声を良く聞き、より

しています。また、利用者様のご家族、地域の た声を大切にし、「感謝・謙虚・笑顔」で対応 い」、「気づいてほしい」、「感じてほしい」とい

私たちの施設では、利用者様の「見てほし

用者様の「ほしい」から始まる施設づくり

熱槽の水は災害への備えで大きな安心感



地域交流イベントの開催。ラーメンを提供する「らぁ祭」の様子



併設する託児所こどもさくら苑園児の訪問





レ福住

様

新潟県長岡市福住211高齢者複合施設 サクラー

地域交流スペースで地域の方々と交流